

研究により得られた成果

水草の異常繁茂による滋賀県民の損失評価額は24.6億円

シミュレーションで外来魚撲滅のシナリオが実現した場合、漁獲による供給サービスは10億円、基盤サービスはリン回収金額で7億円回復すると予測

琵琶湖へのリンの負荷量は減少していることを確認

透明度の上昇により定置網への付着藻類が増加していることを解明

ワタカとコイによる水草の繁茂抑制機能を確認

水草繁茂の根本原因は富栄養化による栄養塩の蓄積と推測。

シミュレーションにおいて、外来魚撲滅の場合、トップダウン効果により在来魚介類資源が現状の172%に増加し、付着藻類は53%に、水草は89%に抑制されると推定

多くの在来魚介類による付着藻類の繁茂抑制機能を確認

Ecopath with Ecosimを用いた琵琶湖の漁業を含む生態系モデルを構築

